

第2回西脇知事と行き活きトーク in綾部

日時：平成30年9月2日（日）13:00～14:15

場所：綾部市研修センター

○司会 それでは、ただ今から、西脇知事と行き活きトークを開催させていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、京都府防災消防企画課の平野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、京都府総合防災訓練に続きまして、大変お忙しい中、京都府議会議員の四方先生、綾部市の山崎市長、また、その他多くの綾部市の関係者の皆様並びに綾部市消防団長、副団長、分団長の皆様にも御臨席をいただきまして、まことにありがとうございます。

日頃から京都府政に対しまして、格別の御理解と御協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。また、京都府では現行の総合計画「明日の京都」の計画期間満了を控えておりまして、新たな将来構想や基本計画の策定を進めているところです。

本日は、この新総合計画策定のための府民意見交換会としても位置づけをさせていただいており、本日いただいた皆様からの御意見については、計画策定の参考にさせていただくこととなっております。

本日は、「地域を守る消防団」～魅力ある消防団を目指して～をテーマに、5名の消防団員の方にお集まりいただきました。日頃、消防団員として感じておられることや、消防団の魅力、苦勞、消防団のこれからについて、ざっくばらんにお話しただけたらと思っております。

早速ですが、本日の参加者を御紹介いたします。

私の隣から、綾部市消防団団員の山室崇成（やまむろたかなり）さんです。

○山室崇成 よろしくお願ひします。

○司会 続きまして、綾部市消防団団員の新庄美和子（しんじょうみわこ）さんです。

○新庄美和子 よろしくお願ひします。

○司会 反対側の机にいきまして、綾部市消防団団員の岩崎孝弘（いわさきたかひろ）さんです。

○岩崎孝弘 よろしくお願ひします。

○司会 続いて、大谷大学4回生で消防防災サークルFASTの発起人であります笹原 力（ささはらりき）さんです。

○笹原 力 よろしく申し上げます。

○司会 笹原さんは京都市北消防団にも所属をされている学生の消防団員さんです。

そして、最後に綾部市消防団部長の室垣成樹（むろがきしげき）さんです。

○室垣成樹 よろしく申し上げます。

○司会 そして、京都府知事、西脇隆俊（にしわきたかとし）でございます

○西脇知事 どうも、西脇です。よろしく申し上げます。

○司会 では初めに、西脇知事から御挨拶を申し上げます。

○西脇知事 どうも皆様、御紹介いただきました京都府知事の西脇でございます。今日は、本当にありがとうございます。

まず冒頭、この綾部市、しかも上杉でございますけれども、先般の7月豪雨で尊い3名の方の命が奪われました。府内全体では5名の方の尊い命が奪われました。改めて亡くなられた皆様に対して哀悼の意を表します。また、多くの被害が出ておりますので、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

聞るところによりますと、ここの研修センターも7月豪雨の時には、ボランティアセンターとして活用されたという話も聞いております。そうした場所でしかも防災訓練の日に、テーマが「地域を守る消防団」ということで、私も楽しみにしてまいりました。

大変お忙しい中、多くの方にお集まりいただき、ありがとうございます。また、京都府議の四方先生と林田先生に、わざわざお越しをいただいておりますし、綾部市の山崎市長にも御参加いただいております。今日の訓練も含めまして、改めて心から感謝を申し上げたいと思います。

「行き活きトーク」としては第2回目で、第1回は大山崎町で開催しました。今、京都府の総合計画をつくっております、今回はその計画についての意見交換会も兼ねております。もともとの趣旨は、私が現場主義を徹底すると言っておりますので、私自身が現場のことを体験するというのが1点。もう一つは、地域でそれぞれの分野で御苦労されている方々にお伺いして直接意見交換したいと。限られた時間ではあるんですけども、今回「地域を守る消防団」というテーマで、日頃から積極的に活動されてる皆様と意見交換をしたいと思っております。

消防団の皆さんは、災害時あるいはその災害が発生する前から、避難や警戒など、さまざまな活動に従事されています。そういう中で実践的に地域に入っておられますので、是非とも今日は、日頃感じておられること、特に課題とか、こういう風にしてもらいたいと

いうことを、一応シナリオはありますけど、あんまり気にせんと自由に意見交換したいと思います。どうかよろしくお願いします。

○司会 ありがとうございます。

それでは早速ですが、山室さんから順に、お一人ずつ自己紹介と、消防団に入団したきっかけ、消防団に対する思いなどをお聞かせください。

○山室崇成 私は、綾部市消防団東八田分団の山室崇成です。よろしくお願いします。職業は運送業をやっております。家族構成は、妻と小学校5年の娘、保育園の娘の4人と妻の両親の計6名で楽しく過ごしております。

消防団に入団したきっかけということですが、実は一度は断らせていただきました。ですけど、先輩からの熱心な勧誘によって39歳のときに入団しました。

消防団での主な活動としましては、分団長の指揮のもと、綾部市からお借りしております資機材の点検を月1回、実は昨日もやったんですけれども、管内の河川や防火水槽で実施しております。また、春・秋には、火災予防週間の一環としまして、実火災想定訓練や防火広報、防火チラシの配布をしております。また、有事に備えて訓練や災害警戒などの活動をさせていただいております。

○司会 ありがとうございます。

では、続きまして新庄さん、お願いします。

○新庄美和子 私は、女性消防団シルキーファイヤー、それからラップ隊として活動しております新庄美和子と申します。職業は保育士をしています。両親と3人で暮らしてるんですけども、兄と弟がいます、今はもう家を出てしまってるので、私が消防団に入団して、4世代表彰もいただきました。私でよかったのかな、と思いながらおるんですけども。

父親も消防団に入団していて、綾部市消防団長まで務めさせていただいたこともあって、訓練の様子や団長点検の様子を小さい頃からよく見に行っていました。消防団の方々のビシッ、バシッとした動きを格好いいなという思いを持ちながら見ていました。女性消防団発足に向けて入団のお誘いをいただいて、中学生時代の部活動でトランペットを吹いていたので、ラップにも関心を持って入団を決めました。

入団してからは、女性消防団の皆さんと一緒に街頭広報でチラシを配ったり、高齢者のお宅に訪問してお話を伺ったり、人形劇などで防火の呼びかけをしたりして活動しています。ラップ隊としては、主に出初め式で吹鳴を行っています。

今日は、こうして貴重な機会を与えていただきましたので、ちょっと緊張していますが、よろしくをお願いします。

○司会 岩崎さん、どうぞ。

○岩崎孝弘 山家分団第3部の岩崎孝弘です。よろしくお願いします。

消防団に入ったきっかけは、地域の先輩から消防団に入って欲しいと言われたことです。その当時は、消防団については全然知らない状態に入ることになったのですが、入ってみたら、ポンプ車の立派な設備とか、自分が全然知らなかった、思ってたのとはちょっと違う消防団でびっくりしました。やっぱり火事があって火を消すというイメージで入ったんですが、実際の活動は火事を出さない予防活動や台風災害など、火事ではない出動が非常に多くて、思っていたのと全然違っていました。

地域の活動で家庭の防火点検などもありまして、地域の方とも接することが増えまして、火を消す訓練をするというイメージで入った消防団が、入って見ると全然違ったので、そういうことも入ってない方に伝わればいいなと思います。

○司会 笹原さん、どうぞ。

○笹原 力 京都市北の楽只消防分団に所属している笹原 力です。

入団したきっかけは、大学2回生のときに、僕はサークルとかはしていなくて、ずっとアルバイトばかりしていたんですけど、そのまま学生生活が終わってしまうのは、余りにももったいないと感じたので、自分の成長にもつながり、社会貢献もできることを何かしたいなと思ったことです。友達がたまたま消防団に入っていて、僕も知らない世界だけど、知らないからこそ学べることがあるんじゃないかと思って入団したのがきっかけです。

主な活動としては、5日と20日の無火災推進日の巡回広報活動と、地域住民を対象とした啓発活動などを行っています。

○司会 最後、室垣さんをお願いします。

○室垣成樹 綾部市消防団東八田分団に所属しています室垣成樹です。

入団は13年目で、階級は今、部長をさせてもらってます。職業としましては、福知山市で製造業をやっています。6人家族で、僕と嫁さんと僕の母と、あと小学校6年生と2年生、幼稚園年長さんの3人の子供がいます。

消防団に入団したきっかけとしましては、僕も先輩からの熱い勧誘でした。実は2回目の勧誘のときに入団したんですけども、1回目の勧誘のときは、消防団のことを全く知らなくて、時間もとられるし、訓練は面倒だなと自己中心的な考えで入団は避けていたわけ

です。1回断りまして、2回目には入団している先輩や同級生から熱心な勧誘を受けまして入団した次第です。

入団したてのころは、知り合いもごくわずかだったんですけども、年を重ねるごとにいろいろな地域の知り合いが増えまして、気がつくと、子どもの小学校のPTAの方はほぼ消防団員、そして幼稚園もほぼ同じということになりました。人間関係を築いていく上で非常にプラスになっているなど、入団してよかったなど最近思っているところです。

○司会 皆さん、ありがとうございました

皆さんいろいろなお立場から、消防団活動に御尽力をいただいているというところですけども、知事、今のお話を受けていかがでしょうか。

○西脇知事 私が消防団について話すと長くなるんでね、一言だけ。

私も新庄さんと同じように、父親が、54、5年は消防団に入ってます、市議会議員もやってたんです。9年半前の2月11日に80歳で亡くなったんですけどね。その1カ月前の1月11日に、京都市の岡崎でやる出初め式ですね、入院してたんですけど、どうしても出ると言って聞かへんから、先生も「もう好きにさせてあげはったらどうですか」と言われたんです。病院から一旦うちへ帰って消防団の制服に着がえて、立派に行進をして、ちょうどその1カ月後に亡くなりました。

京都市内なんで、あんまり水防とかはないんで、主に火事の関係やったんですけど、消防団に関する思い出はいっぱいあります。今、いろいろ聞かせてもうただけでもバラエティーに富んでるんで、2巡ぐらいはお話を聞きたいと思っています。

まず山室さんに質問したいんですけど、室垣さんからもあったような、地域の住民の人や団員同士の交流で何か得られたこととか、嫌なことでもいいですけど、何か感じていることを言ってもらえたら。

○山室崇成 私は兄が入団してましたんで、自分は入団することもないと思っておりましたし、どちらかといえば入団したくないなという気持ちのほうが強かったんです。ですけど、入団後はイメージが180度変わりました、地域の安心・安全のために消防団一丸で取り組む姿勢にすごく感銘を受けました。

特に、綾部市消防団には「団長点検」といまして、年に一度、各分団とも団長の点検を受け、採点・評価いただくことになっていまして、約半世紀続いています。今年は、第47回目と聞いています。団長点検は、多くの地域の方やOBの方、近隣分団の団員の方も来られまして、日頃の訓練の成果を披露する場となっています。

そこで最高の評価を受けることが、地域のためだということを先輩団員の方から教えられていますので、約1カ月間、土日や平日の夜間に多種多様な訓練を積んでいます。約1カ月間ですが、苦楽をともにしますと、やっぱり一緒に過ごした仲間にはわからない絆、団員同士のコミュニケーションが生まれてきます。とにかく、1つの号令で全員が動くということは、心と心が繋がっていなければできないことで、初めて見たときはその機敏な動作や迫力に心奪われ、驚き、とても感動しました。

入団時に、当時の部長から消防団の経験や知識がない私に教えていただいたことがあります。「とりあえず大きな声を出す」「きびきびした行動をする」という2つを目標に活動するように、ということでした。それが私に大変合っておりまして、今ではもう消防団活動が何より生きがいになっており、綾部市の消防団員であるとともに、東八田分団の一員であることに誇りを持っております。素晴らしい先輩団員の方ばかりなので、是非、多くの方に入団を勧めて、同じ思いを持ってもらえる仲間を増やしていきたいと感じます。

そして何より、この消防団に入りまして、家族が協力してくれることが一番の励みになっています。私は小学校5年の娘がいるんですけども、子供のことでお父さん同士が集まったはずが、いつの間にか消防団の話で盛り上がってしまったり、PTA活動等にも積極的に参加しやすくなったりと、消防団に入団してプラスの面のほうが非常に多いという状況になっています。

しかし1点だけ後悔があります。それは、39歳で入団したんですけども、もっと早くに入団しておけば良かったなということです。すばらしい先輩に早く会えたり、特に体力面ですが、若いときのほうがもっと活発に訓練や活動ができたのではないかと、唯一の後悔になっています。

○西脇知事 ありがとうございます。

いやいや、山室さんの感想が余りに素晴らし過ぎて、後の方が話しにくいん違うかなと思うんですけど。大きな声で、しかもきびきびとと、体力がいるということですね。操法大会を見ましたけど、一番先頭を走る人、あれは相当、体力が要りますよね。

後で時間が余ったら、その団長点検の話を知りたいので、これは何か長くなりそうやから、一旦、次へ行くことにさせていただきます。私は親父が消防団で、兄弟がいいひんかったんで、年末うちにいても親父もいなくて遊んでくれへんから、いつも年末警戒のときは、器具庫に行って若い消防団員にプラモデルとかをつくってもらってたんす。しかし、女性の姿は1回も見たことはないんですね。

新庄さんこの辺りについて、ラッパ隊とかも含めて、女性だからこそできるようなこととか、他にも女性の方はおられるんですかね、状況をちょっと教えてもらえますか。

○新庄美和子 はい。シルキーファイヤーは今、20名弱います。

○西脇知事 この旗がそうですね。

○新庄美和子 そうです。シルキーファイヤーのワッペンもつくっていただいて活動しているんですけども、本当に女性ならではの視点で、高齢者のお宅訪問に、消防署の方と一緒に伺ったりとか、幼稚園や保育所の防火教室と一緒に訪問させていただいたり、街頭やスーパーなどでチラシを配って防火の呼びかけをしたり活動してるんですけども、やっぱり男性だけで行くよりも女性が一緒ということで、受け入れてもらいやすいのかなと思います。チラシも受け取っていただいたり、ちょっと気楽に話していただいたりすることができるので、女性としてそこは実感しているところです。

それから、本当にいろんな職種の者が在籍してます。私も保育士をしているので、紙芝居をつくったり、人形劇のシナリオを考えたりして、子供の目線に立って企画をしたりしています。あと、いろんな趣味を持つてるメンバーもいますので、よさこい踊りに出たり、合唱祭とか駅伝なども有志で参加することで、消防団として頑張っているみんなの姿をアピールしてもらっています。

それから、ラッパ隊として主に出初め式での式典の吹鳴をしてるんですけども、やっぱり楽器の音があることで、雰囲気も変わるかなということもあります。人数も増やしていきたいなということで、楽器の経験者に呼びかけたりもしてるんですけども、なかなか難しいのが実態です。未経験者の方にも入ってもらって訓練を重ねている段階です。

男性団員の方ならではの活動の部分と、女性団員だからこそできるところで、役割分担しながら一緒に活動していけたらいいなと思っています。

○西脇知事 そのシルキーファイヤーというのは、何人おられるんですか。

○新庄美和子 今18人です。

○西脇知事 結構、おられるんですね。音楽をやる人というのは他にもおられるんですか。

○新庄美和子 はい。保育士でピアノが得意な先生がいたり、あと合唱が好きな方がおられたりで、市のイベント、綾部市の合唱祭とか、いろんな活動に広く参加させていただいています。

○西脇知事 府内で消防団に音楽隊があるところって、他にあるのかな。

○司会 ラッパ隊があるところは何カ所かあります。

○西脇知事 いやいや本当、大変でしょう。現場では何か苦労は。

○新庄美和子 現場に行くことは少なくても、ボランティアの際には参加してるメンバーもいまして、そういったところで参加させていただいています。

○西脇知事 ありがとうございます。

次に岩崎さん、消防団に入って自分の意識が変わったとか、そんなことがあればちょっと御紹介してもらえたら。

○岩崎孝弘 消防団に入るまでは、消防団に対する知識がほとんどありませんでした。入団した直後は、何もわからない状態で実火災想定訓練があったり、やっぱりそんなときは自分はまだ理解が及んでないので、すべきことをちゃんと理解してない、消防団員だけでもあまり役に立てない、とりあえずホースを伸ばすだけというような、そこから始まりました。

年を経るごとに、分からなかったことが分かるようになっていくわけですけど、消防団の年間の活動の中で一番大きなものの1つが、やっぱり団長点検とその訓練です。

○西脇知事 これも出てきますね、いろいろ。

○岩崎孝弘 操法訓練は、時間的にも体力的にもきついものです。夏の暑い中での訓練というところで、大変なことはたくさんあるんです。さすがに操法訓練をやっていて楽しいな、まだやりたいなと思うことはなくて、できれば負担が減ればいいのになと思いつつやっています。それでも誰かがやらなければならないので、自分の役目だと思ってやっているわけです。今年は、山家分団が府の操法大会に出るということで、その訓練に参加させていただきました。

半年近い訓練で、寒い時期から基礎訓練に始まって、最初のうちは週1回ぐらいなんですけども、8月5日の本番までずっと訓練がありまして、やっぱりこの訓練も大変でした。

ですけど、訓練のリーダーを務めてくれた団員が、その訓練も終盤のきついときに「こんなに長い期間、1つの目標に向かってみんなで頑張るといことは、そうそうあるものじゃない」と言いつつ。確かに、参加者全員がこんなに真剣に頑張ることはこれまでなかったことで、操法訓練に参加して良かったなと初めて思ったかもしれません。

本当に、このメンバーみんなで頑張つて最後までできて良かったなと思つたのが、一番の心境の変化です。しんどかつたからこそ、みんなで頑張れた喜びがあつたのかなと思つました。

○西脇知事 さっきから話題になつてるから聞かざるを得ないんですけど、この「団長点

検」というのは、季節としてはいつなんですか。

○岩崎孝弘 今年は6月です。毎週日曜日の午前と午後に1日に2カ所行われまして、それが11分団で6週かかってやります。

○西脇知事 いやいや、すごいですね。私の子供の頃の話になるんですけど、うちの親父、ずっと下京の分団長をやっていて、地元の京都駅前の中学校のグラウンドで、ちょっと訓練やるから見に来いと言うので見に行ったら大爆笑なんですよ。行進する手と足が揃っているところから始まりまして。近所の七条商店街の仏壇屋の社長とか、日頃ほとんどそういうことをしたことない人の集団なわけですよ。それでもう笑って見ているしかないんですけど、それが2、3カ月後に見に行ったら、それなりの形になってるというところが、やっぱり僕も不思議やなと思いましたのでね。

ところで、山家（やまが）って、発電所があるところですか。

○岩崎孝弘 水力発電所があります。

○西脇知事 そうそう。私が子供の頃、親父と山家にようアユ釣りに行きました。だから、山家だけ地名をよう覚えてるんですよ、

私、高校時代、野球をやってましたけど、トーナメントで1回戦で負けるかもしれないのに、3年間ずっとやってるわけじゃないですか。それは、試合に勝つことにも意味があると思うけど、後から思うとやっぱり同じ目標のために心を1つにして、複数の人間がやるということに意味があるということなんじゃないかな。

操法訓練は、大変でしたね。

○岩崎孝弘 ありがとうございます。

○西脇知事 じゃあ、次、笹原さんに。「京都学生FAST」という活動のことはあまりよく知らへんかったんですが、京都はこの20年間くらいで、学生の数は2、3%伸びてるんですよ。だけど20歳前後の年齢帯の人口は減ってるんです。だから、学生の比率は京都の中でも高まっていて、京都の強みは絶対に学生なんです。もともと京都には地域力があって、学生も京都に住んでおられるわけですから、もっとその力を地域で活かさないかと思ってた矢先に、京都学生FASTの話を聞きましたので。学生として消防団活動をしたことで得られたこととか、何かそういうようなことがありましたら教えてください。

○笹原 力 学生で、僕が消防団に入って得られたと思っていることは、1つは、仲間と協力して何かを成し遂げるということです。アルバイトとかしてて、その仲間と協力することはあるんですけど、実際に火災現場に出動になった時は、受け身で指示を待つのではな

くて、自分から何を手伝ったらいいか、どんどん聞きに行ったりだとか、自分で判断して率先して取り組んでいくということの大切さは、消防団だから強く学べたのかなと思っています。あと、消防団に入ってよかったこととして、訓練のこと以外に、学校の就職活動だとか家庭のこととか、何でも気さくに相談できる「もう一つのコミュニティ」というものを持てたというのが、僕の中で大きいと思っています。

○西脇知事 もう一つのコミュニティですか。今は北区ですか。

○笹原 力 北区です。はい。

○西脇知事 分団には何人おられるんですか。

○笹原 力 40人くらいいると思います。

○西脇知事 私、去年の夏まで復興庁の事務次官してましたけど、福島の仮設住宅って、どんどん歯抜けになっていくんですよ。次の住処が決まって抜けていくんです。その空いている住宅に、福島の大学生に泊まってもらうだけのボランティアというのがありました。これがお年寄りに受けるんですね。いつもは隣は空き家とか、集まってもいつも同じ顔ぶれのお年寄りだけやってね。そこに若い学生さんが順番に泊まるだけなんですよ。でもやっぱり盛り上がるんですね。いろいろお話ししたりして。

それでどういうことかという、仮設住宅でさえもそうなんですから、日ごろから住んでおられる学生の方に、地域コミュニティで貢献してもらおうと、ものすごい効果があるんじゃないかなと思って。その消防団での活動を他のコミュニティ活動へ広げられへんかなと思ってまして、またちょっと後で聞かせてください。ありがとうございました。

○笹原 力 ありがとうございます。

○西脇知事 じゃあ、室垣さん。部長の肩書き持っておられますからね。ひょっとするとちょっとディープな感想があるかもしれないし、さっきから出ている団長点検についても、何かコメントをいただければありがたいんですけど、よろしくお願いします。

○室垣成樹 ちょっと固い話になりますけど、この地域で育ててもらって、先輩方が守ってこられたこの地域を自分たちで守るという強い思い、意思を持って活動しています。

言葉で言うのは簡単なんですけども、分団・部といったところで、全団員が同じ方向を向いて気持ちを1つにして、助け合い活動していくことが大切だなと思っています。気持ちを1つにするということが、消防団にとっては一番大切なことだと思いますし、有事の際には、数以上の力が発揮できるのではと思っています。

先日の7月豪雨災害の時、行方不明者捜索のときには、部・分団・団という大きなく

りで、気持ちを合わせて捜索に当たりました。分団を越えての活動では、日ごろは話したこともない、初めて会う団員さんも多くおられる中での活動になりましたけども、全員が、とにかく無事に救出したいという思いで、気持ちを1つにして活動はできたと思っています。改めて消防団の素晴らしさを感じました。

あと、部長になって、これまで務めてこられた方々の大変さを最近、痛感しているところです。火災や水害出動時に、全ての団員が、無理なく安全に活動して、事故なく無事に帰っていただくことを何より最優先に考えています。

全国のニュースでは、消防団の方も活動中に命を落とされるということも聞いたりします。家族の方も、消防団活動に出動されて、まさかけがや事故に遭われるということは考えておられないと思いますので、何においても、無事に帰っていただく、気持ちよく活動をしていただくということを最優先にしまして、指示命令を出すようにしています。

○西脇知事 さすが部長ですね。言わはる事が格調高くなってきましたよね。

さっき復興の話をしましたけど、あの東日本大震災の津波で、水門、樋門を閉める操作のスイッチを誰かが入れに行かなあかんかったんですね。水防団員、消防団員の方が樋門や水門に行ったら、当然逃げ遅れるということで、その後、お金で済むことであればというので、遠隔操作がついたんです。

「津波てんでんこ」という言葉を聞かれたことあるかもしれませんが、昔からの伝承で、津波が来たときは家族や兄弟のことも全く考えずに、まず自分自身が高いところに向かって走って逃げるのが、最も命が助かる道だと言われています。「釜石の奇跡」と言われていることも、小・中学生とかが下級生の手を引いて走って、建設中の高速道路に上がって全員助かったということです。

崇高な使命ですけど、無事でやってもらわないと本当に居たたまれないので、そういうことにも是非、気を配っていただいたらということです。どうもありがとうございました。

○室垣成樹 ありがとうございます。

○司会 本当にそれぞれのお立場で、それぞれの特技を生かして、地域を守る消防団への熱意というのをお聞かせいただきました。本当に頼もしいな、と感じられたと思います。

それでは逆に、消防団に入られて苦労していることや、もうちょっとこういうふうになって欲しいな、と思うようなことがあれば、お話しいただけたらと思います。知事、お願いいたします。

○西脇知事 また同じ順番で恐縮ですが、山室さん、先ほどは大声できびきびと、という言

葉がありました。先日の豪雨災害で土砂災害行方不明者の捜索に当たられまして、猛暑の中、本当に懸命に捜索に当たっていただいたことに、感謝を申し上げたいと思います。現場に行かれて、改めて災害に対する怖さというか、日ごろの備えとか、もし感想があれば、よろしくをお願いします。

○山室崇成 先般の集中豪雨で、私たちの部では、分団本部からの指示で自宅待機しておったんですけども、ちょうど7月7日の日が変わる、0時からわずか3時間ほどですかね、今まで経験したことのないような勢いで雨が降り続けました。その間、河川の水位も一気に上がり、道路も冠水し、そしてちょうど朝5時頃やったんですけども、私、自宅にいて、緊急車両2台が、土砂崩れのあった災害現場に入って行くのを目撃しました。自分たちの住みなれたこの地域で、また管内の身近な場所で、尊い3名の命が奪われたということが本当にショックで、こんな思いは、もう二度としたくないと涙したような状況でした。改めて、御冥福をお祈り申し上げます。

あと、自然災害を未然に防ぐということは、なかなかできない状況であると思いますが、今回、感じたことは、誰もが人ごとではないということ、やはり強く意識することだと思いました。ハザードマップや最新の情報を得ながら、一人一人が早目に行動することが大切だと思います。また、消防団としてできることは、例えば、空振りであってもいいので、勇気を持って避難誘導をしていくこともあると思います。また、今までの経験だけで行動するのではなくて、経験したことのないようなことを想像する力も必要だと感じました。

そのためにも、地元の地域ならではの地の利を生かして、日頃から住民の方々の様子や家族構成など、1点でも多くの現状を得る声かけなどが、日々大切なのかなと感じました。しかし、なかなか避難をされていないのが現状なので、避難の大切さをいま一度知っていただく必要があると感じます。消防団だけでは限界があるということなので、行政の方とか、さまざまな団体の方と連携して、また連絡を密にして、瞬時に情報を伝える必要があるのかなと深く感じました。

私はまだ入団2年なんですけど、消防団員としての経験や知識が乏しい中での活動でした。大災害とか大水害が発生した場合、どのように対処すべきなのか、そういうことを学べる機会や研修などがあれば、もっと役立つのかなとも感じました。

また、今回の災害で命の尊さを学びましたので、もう二度とこんなつらい災害が起きることのないよう、少しでも防ぐできるように、自己研鑽していきたいと思っています。

○西脇知事 ありがとうございます。捜索活動は本当に大変なんですけど、未然の避難誘導とか、土砂災害や水害の警戒、実は、これも消防団には相当やっていただいている、危険な業務だと思うんです。特に京都は、避難勧告・避難指示が、現実の避難に結びついていない。60万人ぐらいに避難勧告等が出るのに4,200人ぐらいしか避難していない。これも最大の課題で、日頃からの啓発が非常に重要だということです。また、9月定例議会で理解が得られれば補正予算で、災害時にどんなことが起こったら誰が何をするかという「タイムライン」のモデル事業を3つくらいやろうと思ってます。そういうことにも、ぜひ御協力いただきたい。

特に夜とか、しかも降雨が続いているときの避難誘導というのは、恐らく消防団の方がやっていただくことになると思うんです。要援護者のところについては、日頃からマーキングなどして、なるべく準備をしておくことより安全かなと思うので、よろしく願いしたいなと思います。

では、新庄さん、女性ならではの活動もなかなか制約があるので、こういうサポートがあれば、もっと活躍できるというようなことがあれば教えてください。

○新庄美和子 女性の活動の場ということで、幼稚園や保育所の訪問をさせていただいたりもするんですけども、平日の活動は仕事の調整も難しく、訪問できる団員を確保することが難しい状況になっています。

また、新入団員さんの募集も行っているんですけども、やっぱり女性で家庭を支えておられる方もおられますし、みんなで集まる時間の確保であったり、活動に行くということの調整が難しいと言っている団員もいます。

そこにも旗を掲げていただいているんですけども、今、綾部市では、消防団応援の店ということで、消防団にはちょっと特典をつけてもらえたり、優遇してもらえるという制度をつくっていただきました。消防団ということで本当に応援してもらってますので、入団していただける方も増えていけばいいなと思っております。

○西脇知事 ありがとうございます。

今日の避難所訓練を見ても、阪神・淡路大震災のときに比べたら、避難所にもかなり女性の視点が増えていると思うんです。昔は、避難所でも、男女同じだとか、間仕切りがないとかいろいろありましたが、消防団側にも、女性に活動しやすい配慮が必要ですね。

今、ちょっと思ったんですけど、そういうPR活動などであれば、団長点検とかせんでもええわけでしょう。消防団って物すごい垣根が高い、ハードルが高いと思われがちかも

しませんが、もうちょっと柔らかい活動に参加してくれるメンバーを増やされるといんじゃないかなと思いましたので。

○新庄美和子 そうですね。

○西脇知事 なるべく輪を広げていただきたいなと思いますし、さっき言いましたように、避難所だけじゃなく、女性の視点が欠けているところはいっぱいありますので、是非、防災のプロとしてアドバイスしていただければと思います。よろしく願いいたします。

次、岩崎さん。さっきちょっと出てましたけど、皆さんそれぞれ、家族はもちろんですけど、お仕事の関係もありますし、家族とか職場での消防団活動に対する理解とか、その辺について何か感想があれば。

○岩崎孝弘 幸いにして、僕の家族、職場、地元などは、消防団にとっても理解があります。団長点検の訓練なんかは連日あったりするんですけど、服の洗濯とか、夜、帰宅が遅くなったりするようなことがあっても、とても理解があります。職場でも消防団の団員の方がたくさんおられまして、今年は操法大会に出るといので、今まであまり会話をしたことない方でも声をかけていただいたりしました。僕自身は、とても理解のある場におりますし、地元でも、夜に結構大きな音や大きな声でする訓練を民家のすぐそばでやるわけですけども、近所の方にも「訓練、お疲れさまやね」と声をかけていただけている感じです。

僕はそうなんですけど、新入団員のお誘いで「是非入ってほしい」とお願いに行ったときに、「仕事が忙しいので」「時間がないので入団しても出れないので迷惑がかかるから」というお答えをいただくことが多いですね。職場の理解の必要性とか、消防団員の獲得の難しさとか、とても感じる人が多いです。

○西脇知事 ありがとうございます。私も家族の理解というのは重要だと思います。入団のきっかけは、親からか先輩からの勧誘、この2つのパターンなんですね。そういうふうになるとPRは重要なんだけど、今の岩崎さんの話を聞くと、消防団って日頃からこんなに役に立つんだとか、こんなに重要なことをされてるんだということが、社会全般に広がれば、自ずと理解が深まってくるような気がします。ひとつ一つ企業を回るわけにいきませんしね。勧誘している人の職場に行って、そこの社長に「こいつ勧誘してますから入れてくれ」と言うわけにいかへんから、一般の理解を深めるというのがいいのかなと思います。

私も高校までは「火事や！」言うてよう電話かかってきてました。昔は、今みたいにスマホとかなくて状況わからへんから、親父に「おまえちょっと見てこい」と言われて、チャリでガーッと行ってました。ほんですぐ帰ってきて「ボヤやから大丈夫や。行かんでも

ええ」とか言うてね。団長って動員をかける電話をするかどうかで、やっぱり大変なわけですよ。その判断を求められてて私がよく現場に行っただけです。本当に職場の理解が必要だなと思いますね。

そういうことでは、笹原さんもバイトもあるし、勉強もちょっとはせなあかんやろうし、両立というか、その辺どうですかね、苦労しているところがあれば。

○笹原 力 僕は学費を自分で払っているの、アルバイトに割く時間がとても多くなってしまって、分団の活動に参加できないときとかもあつたりするんですね。そういうときに、うちの分団は結構理解してくれて、相談とか話をしたら聞き入れてくれますし、後押ししてくれたりもします。両立という意味ではしやすい体制があつて、僕は難しくなく両立することができました。

○西脇知事 ちょっとアイデアが欲しいんだけど。行政としてですけど、どうすれば学生の方の消防団員が増えるか、ちょっとアイデアがあれば教えてもらえませんか。

○笹原 力 僕のアイデアというほどでもないんですけど。僕が立ち上げた学生FASTもそうなんですけど、学生の中でも防災に触れる機会というのは、どんどん増えていくと思うんですね。学生FASTの消防サークルの活動が広がっていけば、消防団にも触れる機会も必然的に増えると思います。学生FASTについて認知してもらうことも大切なのかなと思っています。

○西脇知事 さっきちょっと就職の話が出てたけど、笹原さんの先輩たちとかも、就職活動のときには、消防団活動とかFASTの活動したということを面接などできちっと主張してはつたんですかね。

○笹原 力 一応、言うようにはしています。それが僕の学生時代の活動の中心だったので、「僕のやってきたことはこういうこと」というので伝えるようにはしています。

○西脇知事 私らも採用もして感じてるところがあつて、ボランティアって非常に重要だし、日ごろのコミュニティ活動とか地域活動についても、企業の方で正當に評価されるようになればいいと思います。やっぱり何かこう、ちょっとした実利も要るんですよね。理念だけでは、なかなか難しいというところがある

室垣さん、さっきから出ている団員の確保ですね。全国的にもなかなか難しいという。消防団の重要性って、どこでもみんな言っただけだから、何が一番団員の確保にいいのかとか、その辺の苦労とか、もしお話があれば。

○室垣成樹 団員確保の難しさという点で、小学校での男性の同級生というのは、30人弱

ほどいたんですけれども、今現在、地元に残っているのは4人ぐらいです。うち3人は消防団員に入っていて、うち1人は、お兄ちゃんが入っているから入っていないと。ほぼ消防団員になっているような状態です。他の団員の方に聞いてみましても、似たような感じで。あと、少子高齢化ということもあって、本当に若い方がいなくなって、団員確保に苦慮している状態です。

勧誘に行った先でも「サービス業をしていて土日仕事なんで入りません」とか、「土日関係なく3交代の勤務ですので入れません」とか。一番強烈だったのが、若い方に勧誘に行ったんですけれども、会社の先輩で消防団の方がおられて、夜通し警戒して、次の日、寝不足で仕事に来ておられるのを見て、「僕はそんなしんどいことをしたくありません」ということを堂々と言われてびっくりしました。とりあえず、そういった若い方というのは、消防団のデメリットしか見えてないのかなと感じております。

綾部市の消防団は、綾部市消防団応援の店などの制度を取り入れてもらったり、出勤手当の見直し等で、以前に比べて処遇等は改善されたとは思いますが、若い方に入団してもらおうメリットというのは、まだまだインパクトが少ないのかなと思っています。

あと、先日の7月の集中豪雨で、私たちの分団管内から3名の方がお亡くなりになられ、御冥福をお祈りするところでもありますけれども、こういった防災組織が必要と感じていただけるときに、災害復旧とあわせて消防団の活動というのも取り上げていただければと思います。地域になくてはならない組織であることを知っていただいて、消防団とは何か、消防団とはどのような活動をしているのか等、もっと皆様に知ってもらえれば、入団につながるのではないかと考えております。

あと、勧誘の活動につきましても、消防団だけでは限界もありますので、行政である府や市、自治会、自主防災組織、ボランティア団体等々、さまざまな団体からも取り上げていただき、加入を促していただけたらなと思っています。

○西脇知事 ありがとうございます。今話を聞くと、少子高齢化とか若者の流出とかもあって、年代別に計算してみると、各年代の消防団員の比率は昔より高いかもしれないですね。そういうことも含めて考えないかなということと、おっしゃるとおり行政の役割ですよね。

7月豪雨災害では、亀岡で車が土石流に流され、不明者の方が下流の川の対岸にひっかかって見つかったんです。あれ、物すごい難しい収容だったらしいんですね。亀岡の消防団で最も優れた人と、あと大阪側の非常に優れた人のお二人が、大きく迂回してロープを

渡して収容したんです。そういうのって地元では有名な話になってるんですけど、消防団の中でも、それなりに力量がある人たちが行かないと、不明者を収容することも出来なかったわけですし、そういうことをきちっと伝えていくのも、われわれ行政の役目かなと思ってます。本当にありがとうございました。

○司会 話も尽きないところなんですけれども、ちょっと時間が押してまいりましたので、最後に一言、皆様から消防団に対する思いを話していただけたらと思います。

順番に、山室さんからお願いします。

○山室崇成 消防団に対する思いとしましては、自分たちの町は自分たちの手で守るという強い精神を持って、住民や自分たちの命にかかわる大変重要なポジションだと思っております。私はまだ日が浅いので、勝手な判断とか行動は避けて、上長が言われる指示をしっかり見聞きして、冷静に自分のできることから取り組んで成長していきたいなという思いがあります。

先ほどちょっと言われてたんですけど、災害が発生すると、やっぱり消防団としての出勤回数が増えますので、職場の理解がないと「何であの人ばかりいつも抜けるんだ」とか思われますので、行政や会社の方での協力体制が必要なのかなと感じます。

あとは、ちょっと余談になるんですけど、災害や台風の際に、長丁場、夜通し消防の詰り所で直角の固い椅子に座ってずっと待機しているものでして、腰痛者もかなり出ています。そういう面で、消防団のメンバーが少しでも体を休ませたり横になれるところが必要なのかなと。うちの部長は気を配って隣の公民館を借りてくれて「寝てこいや」と言っていたんですけども、そういうことは、至る所の消防団で発生してることではないかなと思いますので、ちょっと要望したいと思っています。

○新庄美和子 私も小さいころから消防団の方の活動を見てきていますし、仕事で子どもたちに関わる中でも「お父さんは消防団」と誇りを持っていて、「消防団に守ってもらってるんや」という話をしたりします。子供たちは消防車を見ると大興奮しますし、憧れの気持ちも持っていますので、皆さんの活動を伝えながら一緒に学んでいけたらいいなと思っています。私自身、活動の中で学ばせてもらうことも多くて、防火訪問に行くにもいろんな知識が必要ですし、私自身も学びながら活動に活かしていきたいなと考えています。

また、それぞれ特技を持っている女性消防団ですので、その点をアピールしながら、女性ならではの視点で活動がしていければと思っています。

○岩崎孝弘 今日はずっと操法訓練の話ばかりしてまんですけども、印象に残った言葉がもう一

つありまして、訓練の指導者の方に「君たちに操法を好きになってほしい」と言われました。自分が入団してすぐだったら「そんなことはないだろう」と思うんですけども、ずっと真剣に一生懸命に操法をするうちに、理解も深まってひとつ一つの操法は必要でやっているんだな、と思えるようになってきました。まだ消防団にまだ入っていないくて、あの訓練風景を見てちょっと嫌だなと思っている方にも、操法はこういうふうな意味があるんだよというのを理解して欲しいという意味で、僕もまだしんどいんですけど、できれば操法を好きになりたいと思います。

○西脇知事 ありがとうございます。

○笹原 力 僕にとって消防団は、人の役に立つことであったり、訓練自体にもやりがいを感じるものです。分団の方々にいろんなお話を聞いていただいたりとか、助けていただいている部分もあるので、そういういろんな面の消防団ということ、もっとみんなに広めていけるように、学生という若い力をどんどんみんなのために活用できるように、頑張っていきたいと思います。

○室垣成樹 最近思っていることなんですけども、近年、台風などによる水防出動というのが増加してきています。消防団員は消防団員であると同時に、会社員、公務員等、仕事を別に持っているわけですし、夜間の出動というので、不眠不休の状態の仕事に向かう団員を見ていると、非常に心苦しく感じるんです。その人たちも、自分たちの町は自分たちで守るという思いで、皆さん頑張ってくださっているんだと思うんですけども、その労をねぎらうという意味でも、消防団員の処遇がもうちょっと良くなればいいなと思います。ということをお伝えさせていただきます。

○西脇知事 本日は、本当にありがとうございました。

今、全部は総括し切れへんんですけど、今日聞かせていただいたお話は、全部、重要な話ばかりです。

この間、発表された内閣府の国民生活に関する意識調査の中で、一番関心があったのが防災でした。7月豪雨の直後だったんですけど、地域防災についての意識はとても高まっているんですね。

消防団に対する期待も大きくて、全国知事会でも、避難指示・避難勧告が、どうして実際の避難に結びつかないのか、これはどうしたらいいかと話しています。もちろん早目の指示を出すとか、空振り覚悟とか、気象庁の警報との連動とかいろいろあるんですけど、やっぱり災害の多いところの知事はよくわかっておられて、最後は消防団員に頼るしかな

いんだ、みたいなことを言っておられます。期待も高いからこそ御苦労も多いので、消防団員の確保については、まずは、いかに消防団の方が苦労されているかとか、役に立っているかということ、きちっと行政がPRしないと。あと、処遇の話とか、装備とか、そういうところにも行政の役割があるわけですし、もう一つ、今日お話しして思ったのは、女性ですとか、学生とか、やっぱり新しい消防団のフィールドを広げていくということも非常に重要なこと。その辺もやっぱり行政の役割かなと。今日、綾部市長も来ていただいておりますので、一緒になって取り組み、努力をしてみたいと思います。

でも、そう言いながらも、もうすぐ台風21号が来ますね。たまたま今日の訓練が、ちょうど雨と雨のすき間だったので何とかできたんですけど、また本当に厳しい局面があるかもしれません。地域住民の方は、本当に皆さん消防団を頼りにされていると思いますので、くれぐれも安全に、無事にきちっとできるような配慮をお願いしたいです。引き続き、地域の安全・安心のために御協力いただきたいと思います。

私も、先ほど言いましたように、地域の防災力、安心・安全ということを公約の大きな柱に掲げていますので、できる限り努力したいと思います。

今日は、お時間をいただきまして、貴重な御意見を賜りましたことに、心から御礼申し上げます。締めとさせていただきます。どうも本当にありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。以上をもちまして、西脇知事と行き活きトークを終了いたします。西脇知事、御参加いただいた消防団の皆様、本当にありがとうございました。

○西脇知事 どうもありがとうございました。